

令和7年度 第51回沖縄県畜産共進会 審査委員長講評

【種畜部門 令和7年11月1日 開催】

第1部 肉用牛の部 総評

肉用牛につきましては、若雌1類、2類、高等登録群合わせて41頭の出品がありました。

全国和牛登録協会黒毛和種審査標準に基づき、厳正に審査を行いました。

審査においては、全体的に発育良好で、体積、特に体の伸びに優れる牛が多くみられました。一方、資質は皮膚ゆとり、骨味において若干バラつきが見られました。今後は資質・品位などの種牛性の改良に一層努めていただきますようお願いいたします。

第2部 乳用牛の部 総評

乳用牛につきましては、欠場もあり、23頭の出品となりました。

審査は、日本ホルスタイン登録協会審査標準に基づき行いました。

若雌については全体的に発育良く、乳用性に富み、体の各バランスも良く、頸から肩への移行の良い牛が揃っていました。

成雌については、乳用性に富み、肋の開張の張り・方向が良く、輪郭鮮明な牛、また乳房も産歴が異なりますが、それぞれ乳房付着も強く高い位置にあり、今後も各農家にて活躍が期待できる牛が出品されていました。今後も飼養管理等の改善に努めていただきますようお願い申し上げます。

【枝肉部門 令和7年10月28日 開催】

第3部 肉牛の部 総評

枝肉の審査は、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準とした冷屠体の審査で行っております。

今回の出品頭数は去勢25頭でありました。

全体の平均では、上物率は前回に引き続き100%、A-5率は88%、またBMSNo、枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さなど全ての項目で前回に比べて向上した素晴らしい結果となりました。

父牛別でみると、平成30年生まれの「美百合」が10頭、平成27年生まれで一価不飽和脂肪酸の育種価が高い「美津忠平」が7頭となっており、この2頭の種雄牛産子が入賞を果たしました。

「美百合」産子の平均値は枝肉重量566kg、BMSNo. 10.3と見事な成績となっています。「美津忠平」についても、優等1席受賞と素晴らしい成績を収め、今後の後継牛として大いに期待される結果でした。

続いて格付けは	A-5	22頭	88%
	A-4	3頭	12%

これも、日頃から農家の皆様が肥育技術の向上を目指して努力して頂いた結果だと思います。肉用牛である黒毛和種において肥育の重要性は言うまでもありません。農家の皆様のたゆまぬ努力が県産和牛の魅力発信に繋がっております。その努力に敬意を表するとともに、今後とも目の行き届いた飼養管理をお願いしたいと思います。

以上、審査講評とさせていただきます。

令和7年度第51回沖縄県畜産共進会
審査委員長 真喜志修